

# 長畝ふるさと通信

【2011年8月号】

## ■ 夏の田んぼ作業あれこれ

### (1) 穂肥散布

7月末になると、稲の養分が不足してきます。そこで、「穂肥」という栄養補給をしてやります。その際、肥料分が多すぎると収穫時に稲が倒伏してしまいますし、食味も落としてしまいます。反対に少なすぎると穂の実りが悪くなってしまいます。田んぼの稲と相談しながら、「穂肥」を打つので、「穂声」と書くのかもしれませんが。



### (2) 草刈り



夏の草刈りは暑さとの戦いです。気温が上がると草丈もどんどん伸びてくるので、刈っても刈ってもきりがありません。それでも畦は生きものたちにとって大切な場所なので除草剤は一切使いません。

### (3) 害虫防除

稲の穂が出揃う8月10日頃、害虫防除を行います。カメムシなどが稲の穂をかじって

「斑点米」になると、お米の等級が落ちてしまうからです。以前はヘリコプターによる空中散布で大量の農薬を散布していましたが、今はラジコンヘリを使って、必要な場所に最低限の農薬を散布しています。ラジコンヘリが行くことのできない田んぼは写真のように、人力で田んぼの両端にホースを渡し、農薬を散布します。



## ■ 8月7日は全島一斉「生きもの調査の日」

8月7日は全島一斉にトキ認証米の生産者が各地で生きもの調査をする日です。長畝ではトキが良く餌場になっている田んぼの近くで調査をしました。朝6時半頃田んぼへ向かうと、ちょうど6羽のトキが田んぼで餌を食べていましたが、人間に気づくと一斉に飛び立ってしまいました。あとでその田んぼへ行くと、無数のトキの足跡がありました(下写真)。



今回の調査は「クモの調査」と「田んぼ脇の「ビオトープの生きもの調査」です。この時期、田んぼは賑やかでナガコガネグモをはじめとした大型のクモが無数に網を張っています。畦周りにはコオロギやバッタなど秋の主役を張る虫たちがはね回り、その周りの木々には夏の終わりを迎えるセミが最後の合唱に精を出しています。ビオトープにはたくさん

のメダカが泳ぎ、土を掘り起こすとドジョウが涼んでいます。収穫の時期を迎え、たくさん生きものたちが活動しています。

## ■ ふるさと夏まつり

8月13日は恒例の集落夏祭り。大勢の帰省客が毎年楽しみにしています。



今年も約100人が集まって、懐かしいご対面。みんなテーブルを囲んでお酒を酌み交わし、昔話に花が咲きます。宴たけなわになると青年会の兄ちゃん達が酔った勢いにまかせて、伝統芸能「鬼太鼓」を披露。お祭り会場がひとときわ盛り上がります。

これから先10年、20年後も残していきたい集落の大事な行事です。子供達の夏の思い出になってくれたらうれしい限りです。



## ■ 能登の千枚田



佐渡と同じく世界農業遺産に認定された能登の千枚田です。約4haの面積で1004枚の田んぼがあるそうです。